こんな活動です

ふるさと学習支援！「心豊かにたくましく生きる　新庄っ子」

岡山県新庄村

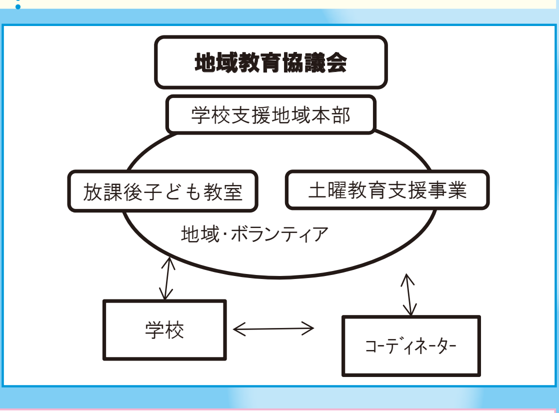
活動名：**新庄村学校支援地域本部**

関係する学校名：**新庄小学校・新庄中学校**

基本データ

学校支援活動	●	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT 活用	企業・NPOとの連携
		0 人	1 人	26 人	有	20 年度	有	無	無
地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT 活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	●	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT 活用	企業・NPOとの連携
		0 人	1 人	5 人	207 日	20 年度	有	無	有
		実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携			
		新庄村公民館			有	連携なし			
土曜日の教育活動	●	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT 活用	企業・NPOとの連携
		0 人	1 人	22 人	無	27 年度	有	無	無
コミュニティ・スクール		指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要・経緯

新庄村は、「新庄っ子「宝」憲章」（平成 14 年）を制定している村であり、条例には「歴史と文化と、美しい自然に恵まれた新庄を誇りにもち」とある。新庄小学校、中学校においては、授業や総合的な学習の時間において、「新庄村を愛する子供の育成」に力を入れてきたが、単発的であった学習をさらに深めるため、平成 27 年度は「新庄小中学校ふるさと学習」として、学期毎の活動を明確にし、年間の学習を継続性のあるものとして実施した。そして、ふるさと学習には、多くの村民ボランティアの力が必要なことから、地域コーディネーターが学校と地域を結び付け、さらに、学んだことを学校から地域に発信することができた。また、地域教育協議会により地域と学校が目指すビジョンの共有を図り、活動に生かしている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「傘踊りを学ぼう」

○新庄小学校５・６年生が新庄村傘踊り保存会の方から傘踊りを教えてもらう。踊りだけでなく、いつから踊られているのか、歌詞の意味は何か、など子供の質問にも答えてもらい、傘踊りについての理解を深めている。

○習った傘踊りは、４月の「がいせん桜まつり」、10 月の「秋のがいせん桜まつり」で披露し、観光客に人気の演目となっている。

「チャレンジ米づくり・郷土の産業」

○小学校全校児童で、田植えから稲刈り、脱穀を経て、「ひめのもちづくり」までの年間通じた学習を行っている。

○学習内容を劇にまとめて学習発表会で発表したり、作った「ひめのもち」をボランティアの方や高齢者の方に配ったりしている。

「地域資源を活用した土曜日教室」

○ふる里を知り、ふる里を愛する子供を育成するため、新庄村の豊かな自然、歴史、人々の営みを教材化し児童生徒に学びの場としている。京山公民館、京山 ESD 推進協議会との共催ということもあり旭川の上流域・下流域の交流にもなっている。

【実施に当たっての工夫】

「傘踊りを学ぼう」

○新庄村傘踊り保存会の高齢化が進み、ボランティアから継続した傘踊り指導に対する不安が持ち上がったことがある。その解決方法として、初回指導（４月）の補助を中学１年生にお願いしている。新しい制服を着た中学生は恥ずかしそうにしながらも、児童へ指導する姿は頼もしい。いずれは、傘踊り保存会の会員として、後輩の指導を担ってくれるものと期待している。

「傘踊りを学ぼう」

「チャレンジ米づくり、郷土の産業」

○米づくりでは、どうして新庄のお米が美味しいのか、ハデ干しをするのは何故なのかと、その意味を考え、水を大切にすることや自然を利用した農業について、それぞれが関係していることを学んで欲しいと考えている。

○ボランティアは農業のプロばかりで、「おじいちゃん、おばあちゃんすごい」と言われることは、ボランティアの励みとなっている。

● 事業を実施しての効果・成果

新庄小学校、中学校でふるさと学習に力を入れることで、子供が地域に愛着を持ち、理解を深めることが出来ている。また、子供の姿勢や素直な驚きが、支援してくれているボランティアへの励みとなり、地域を元気にしてくれている。

「ふるさと学習」についていえば、空白の世代ともいえる 30 代～ 40 代が、児童生徒の親世代と重なっている。学習発表会などで子供が新庄村について学んだことを劇や壁新聞で発信してくれたことにより、「子供から新庄を教えてもらいました」と話す保護者もいた。地域に伝わってきたことを途切れることなく、次世代へとつなげる取組として、今後も行っていきたい。

「チャレンジ米作り、郷土の産業」

● その他

放課後子供教室では、プリント学習で個別に学習支援を行い、子供の様子を適宜学校と情報交換している。